



# 分解ガソリン水素化精製装置用アルファ・ラバル Packinox 超大型プレート式熱交換器

## 標準フィード/エフラント熱交換器

アルファ・ラバル Packinox の分解ガソリン水素化精製装置用、標準フィード/エフラント熱交換器は、この用途においてコストと環境の両面で優れたソリューションであることが証明されています。

下の例には、芳香族ガソリン水素化ユニット (図 1) にアルファ・ラバル Packinox 標準フィード/エフラント熱交換器 (図 2) 1 基を設置して (1995 年)、フィードと H<sub>2</sub> の予熱に使われていた多管式熱交換器 3 基を置き換えた様子が示されています。

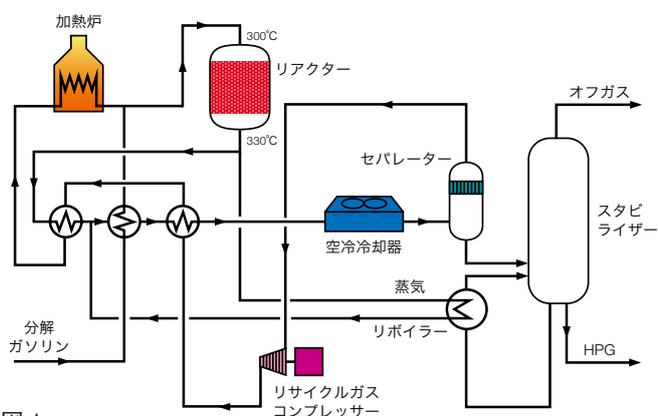


図 1

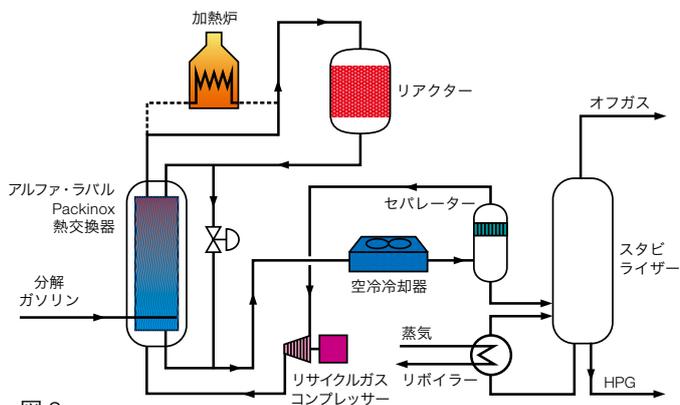
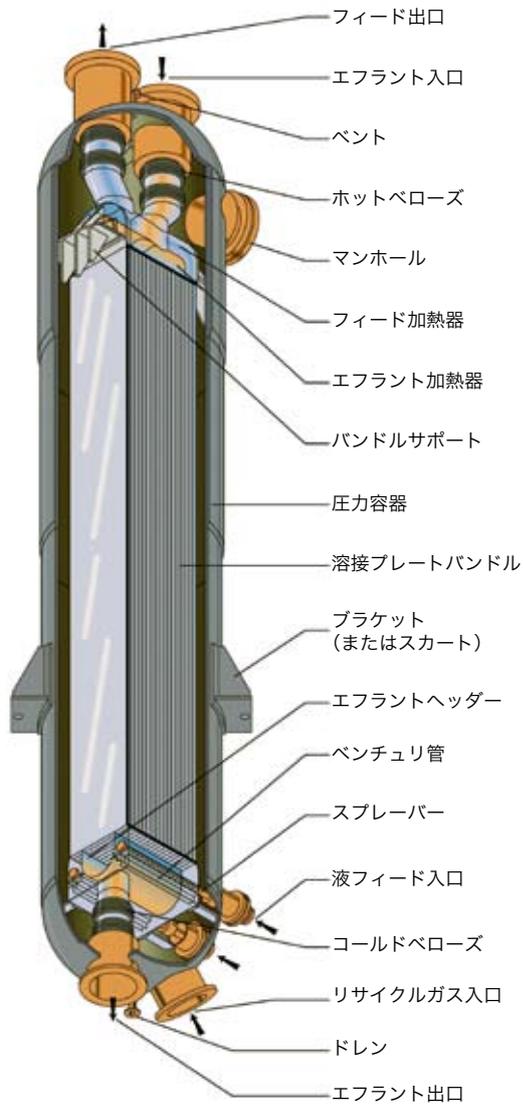


図 2



リアクター排液からの熱回収性能が向上したことにより、リアクターにおける発熱反応熱のみによる運転が可能となりました。この改修によって関連装置の燃料消費量に関する運転コストが大幅に低下し、環境負荷も改善されました。

通常運転中には、アルファ・ラバル Packinox によって既存の H<sub>2</sub> 加熱炉がバイパスされます。これによって、\*8.3MW の燃料が節減されるのに加えて、プラントからのエミッション排出量も減少することになります。さらには、新しい制御方式によって H<sub>2</sub> の流量が減るため、再循環ガス圧縮機の電力需要が \*100kW ほど少なくなります。

その反面、新しい構成では蒸気ボイラーの燃料が \*0.9MW 増加し、スタビライザーのリボイラーの加熱にも \*1.7MW の蒸気が必要となります。この新たな加熱負荷は、S&T の交換によりもたらされる 8.3MW の熱回収によってかなりの部分が埋め合わせされます。

全体として正味のエネルギー節約量は約 6MW であり、プラントの年間燃料コストが \*40 万米ドル削減されることとなります。

\* データはユーザー様ご提供

## アルファ・ラバル株式会社

〒108-0075  
東京都港区港南 2-12-23 明産高浜ビル10階  
TEL. 03-5462-2449 FAX. 03-5462-2456

〒253-0111  
神奈川県高座郡寒川町一之宮 7-11-2  
TEL. 0467-75-5051 FAX. 0467-75-4129

〒530-0004  
大阪市北区堂島浜 2-2-28 堂島アクシスビル13階  
TEL. 06-4796-1575 FAX. 06-4796-1570

〒451-6040  
愛知県名古屋市区西牛島町6-1 名古屋ルーセントタワー40階  
TEL. 052-569-2440 FAX. 052-569-2439

〒722-0051  
広島県尾道市東尾道10-33  
TEL. 0848-38-7734 FAX. 0848-38-7743

〒808-0109  
福岡県北九州市若松区南二島2-2-16  
TEL. 093-772-3311 FAX. 093-772-3310